

相模原市感染症情報

2024年4月



今月の注目疾患：手足口病 & ヘルパンギーナ

手足口病とヘルパンギーナはエンテロウイルスを原因とした感染症で、6月頃から乳幼児を中心に患者数が増えはじめ、7~8月にピークとなる代表的な夏風邪のひとつです。

2023年は手足口病が9月頃、ヘルパンギーナは6~7月頃にピークとなるなど、発生状況が変動しています。今シーズンも注意が必要です。

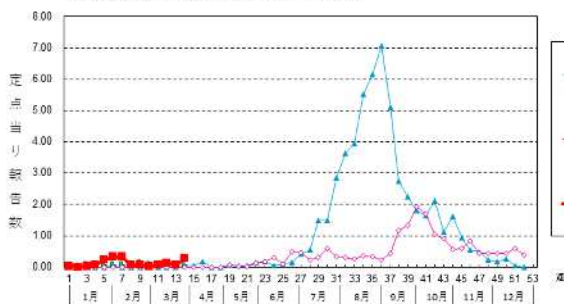
手足口病の症状：手のひら、足の裏や甲、口の中に2~3mmの水ぶくれ状の発疹が現れます。口の中の発疹は、しばしば潰れて口内炎になります。

ヘルパンギーナの症状：突然の発熱に続いて、のどの痛みが現れ、のどが赤く腫れて小さな水疱がたくさんできます。発熱は2~4日間程度で解熱しますが、発熱時に熱性けいれんを伴うことがあるので注意が必要です。

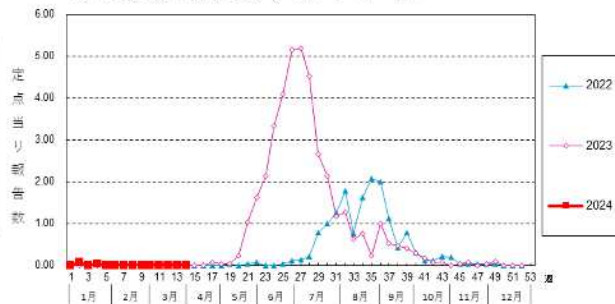
手足口病とヘルパンギーナの違い（表）

	手足口病	ヘルパンギーナ
原因	エンテロウイルス属のウイルス	
かかりやすい年齢	0歳 ~ 5歳	
発熱	軽い（38℃以下）	突然の高熱（38℃以上）
手足の発疹	出る	出ない
感染経路	飛沫感染・接触感染・糞口感染	

市内の定点当り報告数（手足口病）



市内の定点当り報告数（ヘルパンギーナ）



主な感染経路

- 咳やくしゃみによる飛沫感染
- 接触感染
- 糞口感染（便中に排泄されたウイルスが口に入り感染すること）

特に、乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などでは注意が必要です。また、大人に感染することもあります。



【予防方法】

手足口病、ヘルパンギーナには特効薬はなく、特別な治療方法もありません。手洗いを流水と石けんで十分に行い、タオルを共用しないなどの感染予防をしましょう。

どちらも口の中に水泡ができるため、食事は刺激が少なく軟らかめの薄味を心がけ、脱水にならないよう小まめに少しずつ水分補給することが重要です。



治った後も比較的長い期間便の中にウイルスが排泄されます。感染を上げないために排泄物を適切に処理することが大切です。



衛生環境を考えたゾーニングも行いましょう！

相模原市 感染症情報センター



★相模原市感染症情報センターでは、毎週感染症に関する情報を掲載しています



発行：相模原市衛生研究所